

京交山岳部報

今月のテーマ<<紅葉の山へ>>

〔第1854回例会〕★

府県境シリーズ

西 山

日 時 11月3日(日)
出 発 壬生交通局前 AM8:00
コース 京都-須知-高畑
担当者 岡田茂久(☎811)
備 考 地図2.5万分の1 村雲
マイカー山行です。参加者は事前に担
当者に連絡して下さい。

〔第1856回例会〕★★

山の会との合同登山

風越山(権現山) 1,535m

日 時 11月9日~10日(日)
行 先 長野県飯田「風越山(権現山)」
担当者 岡田茂久(☎811)
大槻雅弘(☎544)
備 考 詳細については、22ページを参照して
下さい。

〔第1858回例会〕★★

日 時 11月22日(金)~11月23日(夜)
集 合 壬生 22日 21時
コース 京都-橿原-橋本-大股...伯母子岳
(往路下山)
担当者 大槻雅弘(☎544)
備 考 前夜発で麓でテント泊り、マイカー登
山します。日本200名山にも選ばれ
ている山です。

今月の集会

日 時 11月11日(月) PM6:00
場 所 厚生会館 4F大教室

〔第1855回例会〕★

山ノ辺の道

日 時 11月4日(祝)
集 合 京都駅八条口近鉄改札口前
コース 京都-桜井... (山ノ辺の道)...天理
-京都
担当者 奥村弘信(☎791-7450)

〔第1857回例会〕★

清掃登山

天王山

日 時 11月17日(日)
集 合 JR山崎駅前 9時
コース 山崎...天王山(往路下山)
担当者 近藤 馨(☎961-0185)
奥村弘信(☎791-7450)
備 考 参加される方は担当者まで連絡して
下さい。

〔第1859回例会〕

府県境シリーズ

頭巾山

日 時 12月1日(日)
集 合 壬生 AM8:00出発
コース 京都-和知-小和木
91年のシリーズの最後を名山で締め
たいと思います。天候によっては新
雪を踏めるかも
担当者 岡田茂久(☎811)
備 考 地図、坂本、丹波大町(1/2.5万)

企画運営委員会

日 時 11月21日(木) PM6:30
場 所 厚生会館 4F大教室



現代版山岳丈競べ

岡田茂久

地図を作る場合、まず、各地点の正確な高さや位置を決めることが大切である。その地点を基準点という、基準点のうち正確な高さを示すものが水準点で、国道等の主要な道路沿いに水準路線として、全国を血管のように縦横に走っている。又、正確な位置を示すものが、山頂等に設置される三角点であり、これには根幹となる1等三角点から4等三角点まであり、全国で約7万8千余も設置されている。三角点というと山の頂上にあるものであり、地図に記入の三角点の標高数字が、山の高さと思っている人もあるかも知れない。しかし、三角点は本来は位置を示すもので、三角測量を行う場合に、有利な地点に設置されたもので、必ずしも山の頂上にあるものとは決まっていないのである。又、三角点の無い頂上では等高線により山の標高を読むことになるが、最近では航空写真測量が主であり、頂上が樹木に被われている場合等では、樹木の高さが等高線の高さとなり、しかも10m単位の等高線では、いまひとつ山の標高を正確に示すものとは言い難い。

しかしながら、我が国においては平地が少なく山地が多いところから、人々の生活や生産活動は山との係わりが多く、文化、登山、信仰等その他のいろいろの分野からも、山の高さを正確に知りたいという要望が、国土地理院に寄せられてきた。このため国土地理院では、昭和63年「山の高さに関する委員会」を発足させたのである。2万5千分の1の地図には、約1万6千もの山の名前が記載されているというが、とりあえず全国的に著名な山、登山の対象となる山、信仰や歴史的に有名な山、姿形が美しい山、高山等のうち、1003山の標高を「山の高さに関する委員会」が再調査し、その調査結果を取りまとめた「日本の山岳標高一覧」が、この度発行されたのである。

「日本の山岳標高一覧」で標高が訂正された山は、本当はもっと高い地点があるのに、従来から三角点や標高点を山の高さとしていた山が175山。等高線の数値を読み直した山が113山もある。その数値が特に大きかったものは、対馬の白嶽という山が最高で39m、阿蘇山（根子岳）が25m、八ヶ岳連峰の権現岳は15m、火祭りで有名な秋葉山も15m、北・南・中央の各アルプスの山々も、軒並み数mから十数mも高くなっている。身近なところでは愛宕山が920mから924mに、舞鶴の青葉山が690mから693m、鷲峰山が680mから682mに訂正されている。すでに新しい発行年度の地図では訂正した数値が記入されているようだ。

たしかに、地図における三角点や、独立標高点の数値は正確であるべきである。しかし、等高線のみで判断するものについては、数m単位の等高線の差は読み取れず、又、我々の持つ高度計の精度からいっても確認は難しい。実際の登山でも他の分野においても、この程度の高度差はそう問題とはならないものであろうが、やはり「おらが国さのあの山は、隣の国のあの山より本当は高いんだ」意識の整理の意味もあったのではないだろうか。標高点の高さは何mだか、本当はこの地点の方が高いんや、こっちの方が等高線が1本多い等、結構、地図を読んで楽しんでいたのに、楽しみがちよっぴり減ることになった。それに「日本の山岳標高一覧」1003山が、日本百名山の延長線に見えるのは、kmに満たない山々しかない京都に住む小生のひがみかもしれない。

火打山 (△2462.0 m)

雨飾山 (△1963.2 m)

井戸澄夫

今回の山行は、故大木秀実氏の1周忌(10月10日)を間近にして、彼を追悼するために、思い出深い剣岳から阿曾原～下廊下～ケヤキ平のコースを丸3日間かけて走破する計画を立てた。途中、大木君が見たがっていた仙人池からのハツ峰の眺望や、仙人湯につかりながら見る上弦の月を楽しみにしていた。しかし天は又も我を見放してしまった。8月の個人山行では剣岳の山頂に登りながらも、コース変更を余儀なくされたし、今回の例会では台風17号の直撃とい最悪の事態となってしまった。急遽参加メンバーの若手諸君と協議して、日程の短縮と行先の変更を行い、火打山と雨飾山に登ることとした。今回計画した馬場島……剣岳……三ノ窓……小窓……仙人池……阿曾原……ケヤキ平のコースは、必ず来年の秋に、大木秀実氏追悼登山として例会実施する予定です。

9月14日(土) P.M. 11:00 九条車庫集合。台風は北陸地方を時速50kmで縦断中であり、台風を追走することになるが翌朝は雨が止んでいることを期待しつつ出発した。

まず行程の長い火打山から登り、時間があれば妙高山へも登ろうということで、AM 5:30 笹ヶ峰牧場の国民休暇村に到着し、朝食後6:30に出発した。幸いにして雨は止んでくれた。聞けば前日までは暴風雨であったという。よく整備された道を黒沢まで小1時間のゆるやかな登りで、ブナ林のトンネルを散策した後、十二曲りの急登にかかる。富士見平まで急登が続き大汗をかくが、9月の風はすがすがしい。

ダケカンバが姿をみせる。高谷池ヒュッテまではほぼ水平の道で、くもり空ではあったが、火打山の姿はよく見えた。高谷池ヒュッテは小さな山小屋だが手入れがゆきとどいて、特に戸外のトイレの清潔さに感心した。高谷池から天狗の庭にかけては、標高2,000m程の高層湿原で、小さな池塘の向こうに見える火打山の姿はまことに美しく、尾瀬ヶ原に勝るとも劣らない立派な景色である。火打山への登りは約1時間の急登で、高山植物に心をなごませつつ登ると広い頂上に着く。バンザイのあと天狗の庭まで下り昼食にした。妙高山まで行く時間のゆとりはなかったが、黒沢池ヒュッテを廻っていくことにし、ドーム型の特異な形のヒュッテを見て、黒沢池周辺の高層湿原もまた美しいものだと感じ入りつつ富士見平まで下った。笹ヶ峰登山口にはP.M. 4:20に戻った。車に乗り、乙見山峠を通る悪路を約1時間半ゆられて、次の目的である雨飾山ふもとの小谷温泉村営雨飾荘に到着し、駐車場にテントを張り温泉にゆっくりつかった。

9月16日(月)は朝日がまぶしいくらいにさしこみ、好天が期待された。鎌池の手前の林道の突き当たりはかなり広い駐車場があり、そこが雨飾山の登山口である。すでに先着の車が5台程とまっていた。しばらく大海川沿いにほぼ水平に歩いた後、尾根の急登にかかる。1時間程の登りで標高1,500mまで登り、約100m下って荒菅沢に出会う。ここは絶好の休憩所で、雨飾山

が特異な鋭角的な容貌を見せている。ここから1894mの標高点までが、息もつかせぬ急登であり、みるみる高度を上げていく。トリカブトとアザミの花が美しい姿で心をなごませてくれる。標高点から梶山新湯への分岐を経て山頂直下までは、笹平と呼ばれ、なだらかな高原状となっており、明るい牧歌的な雰囲気である。山頂へは15分程度の草や岩にしがみついた急登となる。山頂は2つに分かれていて、高い方に三角点（2等）があり、低い方に石仏や祠が安置してある。雲が多く山頂から北アルプスの峰々は見えなかったが、日本海が眺望できた。三角点横に鉄製の箱がおいてあり、中には大学ノートとボールペンがあって、登頂者がそれぞれ好きなことを書いている。我々4名の名前も記帳しておいた。連休とあって登山者は多く、四条河原町なみのにぎわいを見せている。韓国慶州産の法酒で乾杯し、ミカンの缶詰をたいらげて下山することにした。下りは荒菅沢まで一気に下り、酒に酔ってフラフラになってしまったが、沢の甘露水で生き返った。登山口へはP. M. 1:00に着き、村宮雨飾荘の露天風呂（無料）で命の洗濯をして帰路についた。帰途、名神高速の大渋滞で遅れてしまい、九条車庫到着はP. M. 10:00になってしまった。

剣岳登頂の予定が、台風のため火打山と雨飾山に方向転換したが、両山とも念願の山だけだけに、充実感のある山行を楽しめた。又、20代の若手が元気なところを見せてくれて、頼もしい思いをした。天国の大木君も目を細めているに違いない。

〔参加者〕 大塚孝之、馬淵拓己、岩野誠司、井戸澄夫

〔コースタイム〕

9/14（土） 九条車庫23:00—（名神）—

9/15（日） 一上越IC 5:00—6:00笹ヶ峰（朝食）…6:30登山口…5:50十二曲り…
8:45富士見平…9:30高谷池ヒュッテ…9:50…11:00火打山頂11:20…11:
:50天狗の庭（昼食）12:40…13:30黒沢池ヒュッテ14:00…15:15十二曲り
…16:20笹ヶ峰—（悪路）—小谷温泉雨飾荘（幕営）

9/16（月） 幕営地 6:40—登山口 7:00…8:20荒菅沢…9:30独標（1894m）…
10:00雨飾山頂10:40…11:50荒菅沢…13:00登山口—（露天風呂）—糸魚川
IC—京都東IC—22:00九条車庫

西中国地方の山

十種ヶ峰と冠山

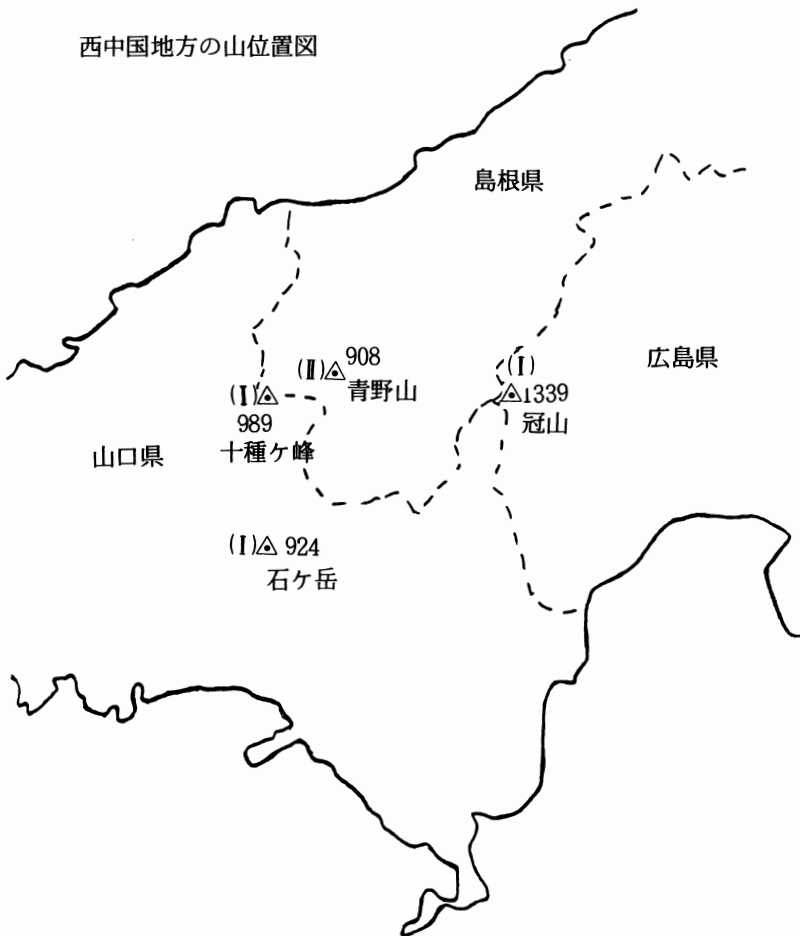
大槻 雅弘

毎夏、楽しみの一つとしている山行に沢登りがある。今年は越後三山を選んだが、台風17号が我々の山行目的地を直撃するコースを取る予報。いくら山好きでも、台風の中の沢登りは出来ないし、無茶である。1日出発を遅らせ、台風の通り過ぎた西中国地方の山々を歩くことにした。

選んだ山は、山口県の石ヶ岳、十種ヶ峰、島根県の青野山、広島県の冠山である。そのうち1等本点が2山、1等補点が1山、2等が1山である。急遽予定を変更したので意識はしていなかったが、十種ヶ峰と冠山は1等三角点百名山に選定されている山である。

京都から高速道路を450km走り欲張った計画の山行は、その半分以上をマイカー登山に助けられ終えることが出来た。

西中国地方の山位置図



十種ヶ峰(とくさがみね) 989m

徳佐マッターホルンとも長門富士とも呼ばれている、山口と島根の県境に位置する山で、360°の大展望が素晴らしいと案内書は言う。勿論、1等の山で百名山なら楽しみにした頂は、残念ながら台風後の青空のもとに、展望満喫するはずが、ガスの中であった。しばし晴れ間を待ったが、我々の期待に応えてくれなかった。

山名の十種(とくさ)は伝説「往古、十種の神宝を埋めた御食主命(みけぬしのみこと)が樹木を生ずまじと祈願された。」というところからか、独立峰である山頂はチュウゴクザサに一面覆われ、樹木のない草山である。でも「この山に樹木生えるな」というのはどうも怪しい。

我々は、十種ヶ峰青少年野外活動センターへ通ずる市場部落から、N T Tの電波塔まで車で入り、A B C DとあるBコースを採って登った。スタート時からガスの中で、磁石で方向を定め、後は指導標に従い約20分程でササの急登を一登りすると三角点であった。三角点標石にタッチし、一同万歳。小生にとって記念すべき1等三角点の百名目の山ともなった。立派な展望位置図があり、かえすがえすもはるばる京の都から来たのにと、ガスを恨んだ。

ここの三角点標石は、普通三角点の $\dot{\text{カ}}\dot{\text{ク}}$ が $\dot{\text{角}}$ であるのに $\dot{\text{角}}$ で、 $\dot{\text{点}}$ は $\dot{\text{點}}$ であった。今までいろいろと写真を撮って来たが初めてののものであった。

冠山(かんむりやま) 1339m

恐羅漢山(おそらかんざん) 1347mに次ぐ広島県第2の高峰の冠山は、他にも県内に同名の山があり、区別するためか「安芸冠山」とか「吉和冠山」と呼ばれている。同名の山は標高順に1004m、1003m、844m、736mの山々がつづく。この冠山は、国定公園西中国山地の中心、冠山山地の主峰でもあり、1等三角点本点でもある。

当初の計画は潮原(うしおばら)から登る予定であったが、山口県から広島県へと車で戻って来て県境近くの冠高原スキー場でテントを張ったので、コースを県境尾根からスタートして潮原温泉へと下ることにした。出発地は冠山南麓にあたる広島、山口県境付近の原野の呼称「判蔵原(ばんぞうはら)」というが、近年は広島側では冠高原、山口側では高根高原と呼ばれている。そのテント地、冠高原スキー場ヒュッテから300m程で山口・広島の県境である。そこは松の木峠とよばれ標高796mで、そこから北に県境を進んだ。

昨日と違って青空が広がり、風も爽やかの中整備された径を登る。ちょうど中国自動車道のトンネルの上を通過するルートで、高速道路が静かな山域に音の公害を響かせていた。1ピッチでP958を過ぎP1164を過ぎたなるい処に展望台があった。低いササの中を気持ち良い風に背を押されて、ブナやトチの太木の中を歩く。先頭の者は、熊の足跡を見たと言って立ち止まる程、自然が豊かなコースである。

冠山への分岐地点より少し北へ進むと、山口、島根、広島の三県境地点があるのでそこまで足を伸ばすことにした。

その地点は古い地名では「雨杉」とか呼ばれているらしかったが、最近「西冠山」となっている。しかし、地図上の三県境にはルートはなく、トラバース気味に径は寂地山へ向かっている

らしく、時間の都合で引き返し冠山へと急いだ。

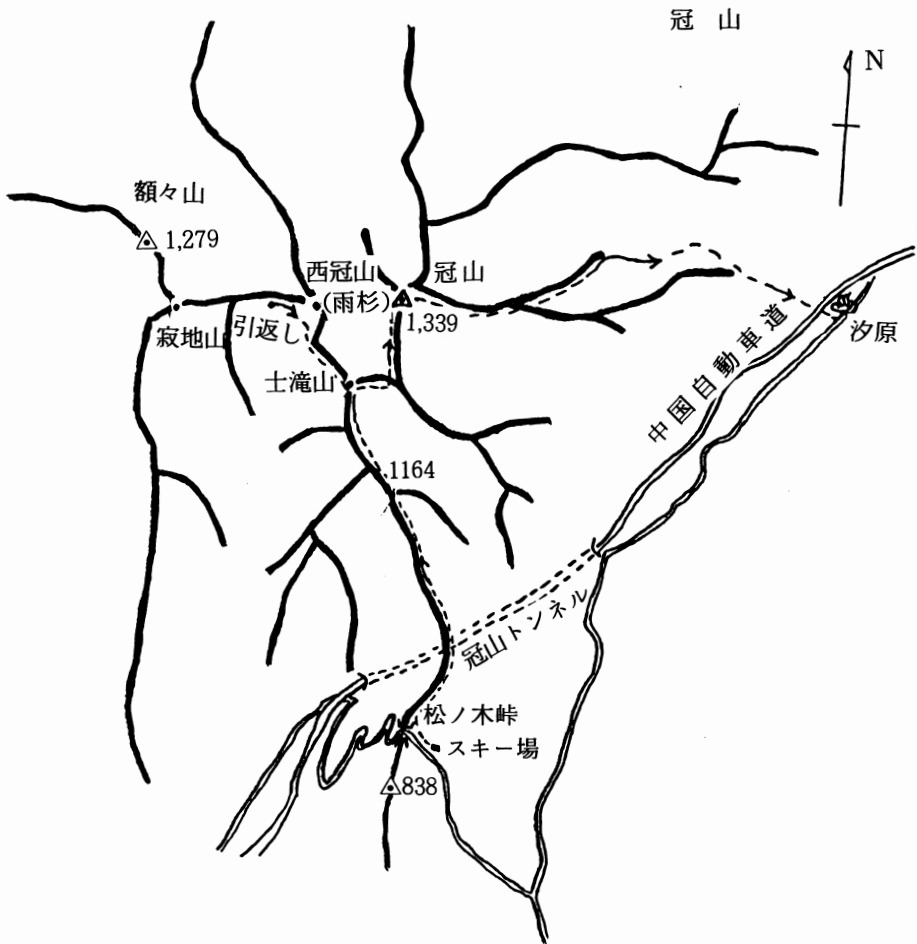
帰宅して調べると、寂地山へは後750mぐらいであり、山口県最高峰1337mの山であった。三角点のない山とはいえ、昭和38年山口国体の聖火採火地でもあったのもう少し足を伸ばし登っておくべきであったと思った。

分岐点から東へ尾根を渡るように冠山主峰の南尾根に取り付き、頂上へと達した。三角点はあまり展望はないが、北へ30mほど歩くとベンチがあり、素晴らしい展望台がある。頂上を後に、潮原に向かうルートを下った。この径は、山姿も望め、明るく途中にはクルソン（狗留孫）仏岩があり、登山者も何人か出会い、この方面の利用者が多いことがうかがえた。

下り立った場所から、スタート地点まで約5km程ヒッチハイクで車を取りに戻り、潮原温泉の湯につかり、西中国の山旅の汗を流した。

《コースタイム》

5：30起床～6：45出発…8：35冠山分岐…引返し9：13…9：40 △ 1339冠山10：17…
11：35登山口…12：00潮原温泉—13：00吉和IC—19：00京都

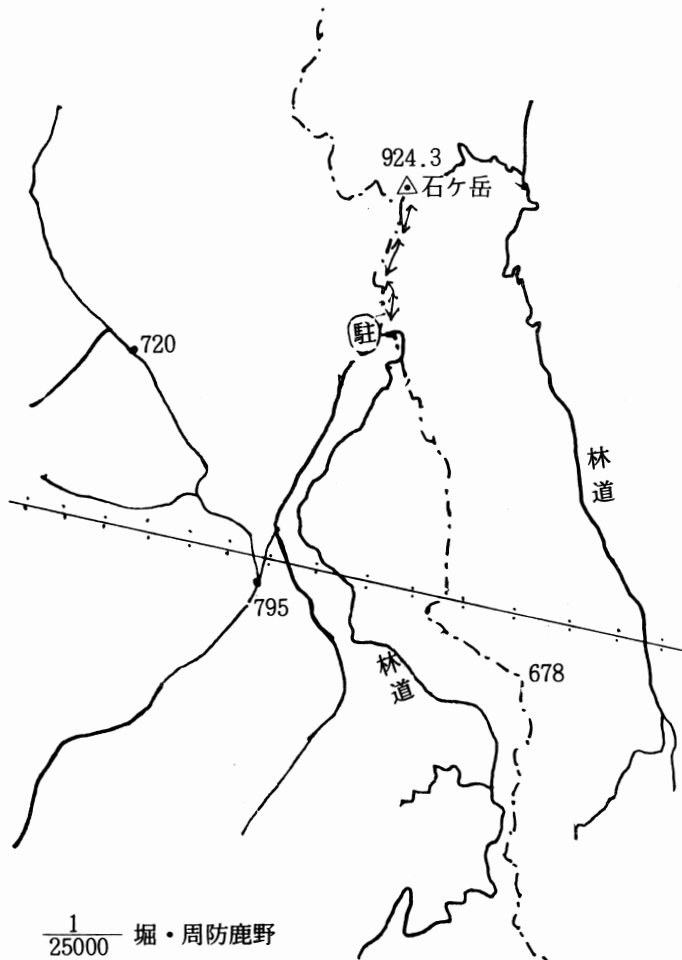


石ケ岳 924.27m 一等三角点

梅津 吉田 武

京都からはるばる来たこの地、山口県鹿野町。14日午後4時京都を出発して、450km程走って石ケ岳のふもとについた。台風17号が本州を直撃するようなので、越後三山を取りやめ台風一過の好天を予想して、西え向かった。道路脇にテントを設営して少々のお酒で就寝する。

15日林道終点にあるパラボラアンテナに車を置いて、アンテナ敷地の角より刈り込まれた所を選んで進むが刈り込みは植林のためなので磁石で方角を定めて、ブッシュの中に入る。少し入った所よりわずかに踏み跡らしき道が、石ケ岳の方向にあった。しばらく踏み跡らしき道を探しながら進とぽっかりと林道にでた。反対の方向より石ケ岳三角点の近くまで上がっている林道で、そこから直ぐに三角点についた。乾杯をして早々にまたブッシュの中に入る。まだこれから十種ヶ峰と、青野山に登るため先を急いだ。



青野山 908m 三等三角点

梅津 吉田 武

笹山登山口で岡田氏、田村氏と別れ、無線機を振り分け別行動をとる。青野山は津和野町のシンボルで絵に書いたようなトロイデ式火山である。岡田、田村両氏は青野山を眺める所（津和野城跡）への観光登山であって、我々は樹林の中、無言の状態で急登する、標高差450m、約1時間滝のような汗を拭いながらの登りであった。頂上は以外と広く北の端には祠（山王権現）が祭られている。下山道は反対の天神口に降りる。途中津和野町を真上より見下ろす所で小休止をして下ると林道に出た無線機にて、岡田、田村両氏を呼んだら、道路が混み合っているので少し待ってくれとの無線であったので、ラーメンでもして待つことにした。しばらくして両氏と合って次の登山地、松の木峠まで車を走らせた。



那 須 ヶ 原 山 △800m 三等三角点

横 井 襄 二

昨年の敬老の日も雨で、今年も台風の影響で天気を心配していたが、京都を出る頃にはやや明るくなって雨の心配は無さそうである。

今年は昨年予定した鈴鹿最北部の霊仙山を止めて、最南部に近い那須ヶ原山に向かう。名神高速と1号線を経由、貴生川町を経て甲賀町に着く。町の南東部の大原貯水池（ダム）南側より舗装の良い林道を南東に進む。那須ヶ原山の表参道を右に見て、少し行ったところで舗装が崩れ行止りになっているので此処に車をすてて山道に入る。

此処からの道は少し悪い所もあるが、道巾も有り緩い登りで比較的歩き易い道である。所々に鈴鹿山系特有の花崗岩の岩肌が露出、風化して一部山道に落下している。山腹の北側を左にまき、久し振りの雨に洗われた緑の多い明るい谷を見ながら坂下峠に着く。此の峠は南北の尾根を切断してVカットされた大きな峠で近江、伊勢の国境でもある。又此の峠越えは白馬越えとも呼ばれ、鈴鹿峠の間道として利用されたものである。昔の旅人も見たであろう景色そのままに、曇り空ながら伊勢湾周辺から遠く知多半島の方まで遠望ができる。

峠からは溝干山、高畑山と鈴鹿の北の方へ通じる道があるが、今回は南に道を取り、那須ヶ原山と向かう。この道は峠迄の道と違い一気の登りと笹の為非常にきつい、笹も鈴鹿北部特有の背の高い笹と異なり背が低いのでかえって歩きにくい。ヤブを分け尾根を暫く登ると展望が開け、琵琶湖と伊勢湾の双方が見える場所に着く。曇り空なのでややガスっているが、鈴鹿山系ならではの非常に良い景色である。

山頂迄の道は地図で見ると起伏はあまり分らないが、案外と起伏が多い。雑木林の尾根を更に南へととる。入山者が少ない為か道標は殆ど無い、しかしビニールテープが所々あるので、注意して歩けば迷うことはまずない。唐木山（730m）。三ツ頭山（772m）と除々に登ると西の山並みの向こうには山頂が見え、東の方も開け関町や加太の家並が望める。此の辺りは雑木林が非常に多い。ほんの少しだが紅葉が見られ、遠くから聞こえるで牡鹿のキューンといった鳴き声に、山では秋の気配が一入感じられる。ほどなくすると三叉路にでる。左をとれば油日岳に通じる道で、右にとって山頂に向かう。ほんの少しで那須ヶ原山頂に着く。

山頂には、こじんまりした那須ヶ原神社が祭られていて、那須ヶ原山の三等三角点（800m）は神社の裏に遠慮がちあった。ガスの為展望はきかないのが残念である。

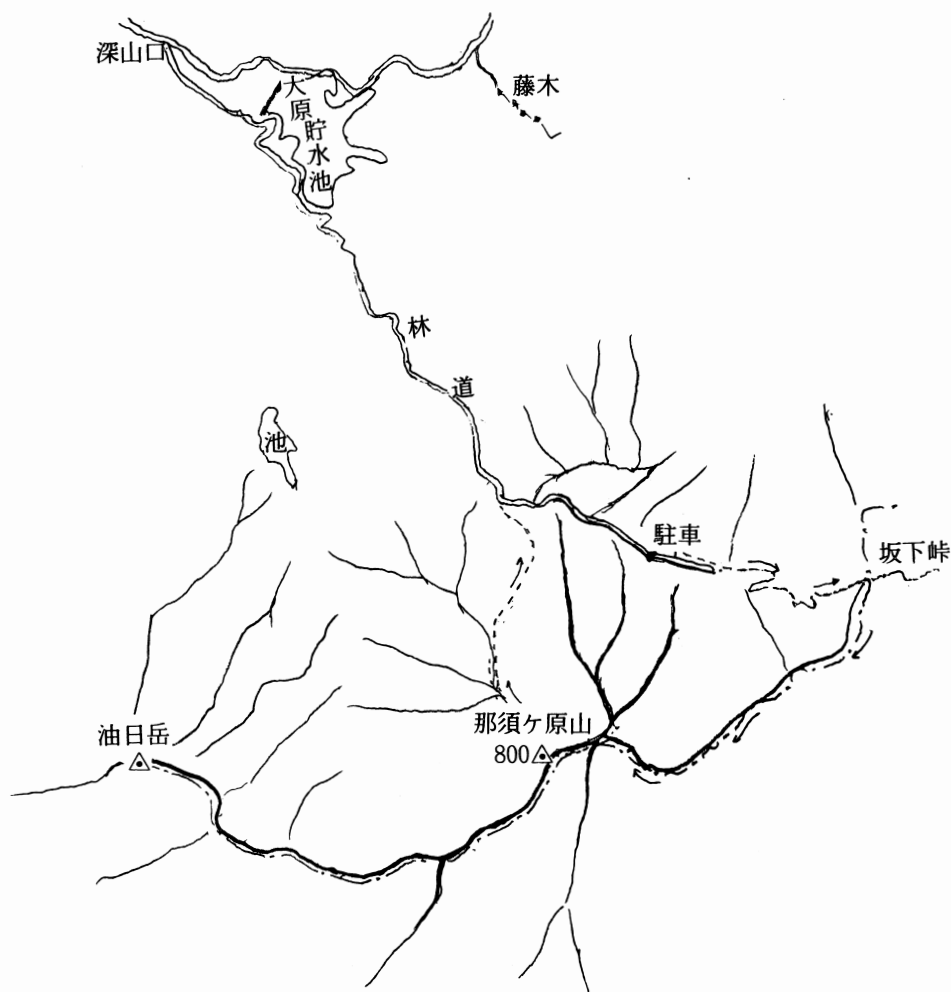
霧雨に変わって来たので食事は少し下がった小屋です。此の小屋は地元の造園業の篤志家の方が、登山参拝に来た人の雨にうたれ、難渋しているのを見かね、数年前にて建てられたもので、CB造の20m程度の小屋である。板敷もあって小雨が降ってきた今日は非常に有り難い。小屋には、先住者のこうもりや、ごく小さい野ねずみがいたが、騒がしので退散した。御免。遅い昼食は津田酒店？差し入れの特性ビールで乾杯。持ち寄りの弁当は美味で空腹にこたえる。

ゆっくり休憩後、表参道を下山する。道は良く整備され、登り道とは対比的に、こちらは杉や
桧の植樹帯が多い。ジグザグの急な道を一気に下ると右手に黒部滝がある。案外大きな立派な滝
であるが、滝壺辺りに木の根や土砂が堆積し、景観を壊しているのはいただけない。

此処から川ぞいに下り、更に舗装された道を下ると表参道の入口に着く。
幸いにして車に乗ってから本降りになってきたが、時間があったので甲賀の忍者屋敷に寄って帰
京した。

参加者 伊豆蔵 (F1)、竹田 勉、山元誠一、井上一夫、上島弘子、原田加津子、
山口雅直、津田 実、横井襄二

コースタイム 竹田西口 8:10……名神京都 I C—栗東 I C—大原ダム—林道終点 10:05 発
坂下峠 10:45~11:00—空木山 11:35—三ツ頭山 12:18
油日岳との分岐 12:45—那須ヶ原山 12:50~14:00—登山口 15:00
甲賀忍者屋敷 15:40~16:30—流れ解散帰京



【第1850回例会】

磯 木 山 (三等△545.0)

井戸澄夫

H. 3. 9. 28 (土) 天候 くもり

磯木山は美山町の安掛から、由良川沿いに芦生へ向けて車で10分程度、河内谷との合流点の近くにある里山である。バスを利用する場合は、京都駅からJRバス(鶴ヶ岡行)で安掛まで行き、美山町営バスに乗りついで知見口で降りる。

この山は大槻副部長にとっては、国土地理院1/5万地図「四ツ谷」に記載されている三角点31山で、最後の末登の山である。大槻氏にとってはきわめて喜ばしい記念すべき山行である。そうした予備知識をもって「四ツ谷」を見ると、大半がまともな道のない、いわゆる「ヤブ山」であることに気づき、あらためて大槻氏のご苦勞が偲ばれるのである。

この磯木山も地図には道が書かれていない。しかし、人里に近い山であることから、踏み跡はついている。知見口から由良川にかかる橋を渡ると、磯木山から延びる尾根の先端部分に、戦没者を祀る忠魂碑がある。土地の人に聞くと、このあたりを磯木というらしい。

忠魂碑の背面の尾根を真直ぐに登っていく。勾配はさほどきつなく、雑木につかまりながら踏み跡をたどっていく。標高差は250m程度で、小一時間で山頂に着く。途中イノシシが体をこすりつけた土の跡や、キバをみがいた樹木の樹皮のはがれた様子を、このような人里に近いところでもイノシシが生息していることに妙に感心した。

山頂には三角点の標石が頭だけしか出ておらず、捜すのに手間どった。大槻副部長の書いた「四ツ谷31山完登記念」の横断幕を掲げて記念撮影し、少し早目の昼食となった。自慢の手料理や山海の珍味が次から次へと出てきて、またたく間に満腹となった。ワインやらビールやらがはいって、ますます口も軽くなり、「四ツ谷怪談」ならぬ山屋の「四ツ谷快談」の花を咲かせた。

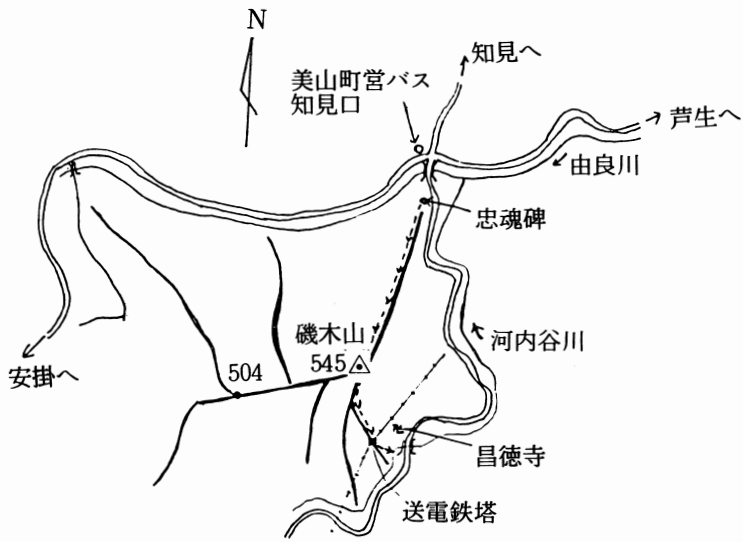
下りは真南へ延びる尾根をたどり、寺のところに降りようということになり、地図を読みながら送電鉄塔のところまで、急勾配の斜面を雑木につかまりながら下った。そこから人家まではわずかな距離であったが、目的とした寺からはすこしはずれた場所に出てしまった。

寺は昌徳寺といい、曹洞宗である。村の古老の話では、河内谷の対岸の標高点662mのあたりに文坊寺という大きな寺があったが、明智光秀により焼かれて、その寺の仁王像を昌徳寺に避難せしめたが、貧乏寺だったので当時の周山城に移して、最後は鞍馬のほうの寺へ売ったとのことである。今でも山の上には文坊寺を偲ぶ祠があるとのことである。

河内谷の岸辺にはミョウガの花が一面に咲いており、家へのみやげに少し頂戴した。また野性の栗や秋の草花を楽しみながら登り口にもどった。

〔参加者〕 岡田、大槻、鷺見、鷺見夫人、三橋、渡辺、方山、井戸

〔コースタイム〕 壬生8:00—10:00知見口・忠魂碑10:20…11:10磯木山頂(昼食)12:40
……13:20河内谷集落……14:00忠魂碑



磯木山概念図

槍ヶ岳北鎌尾根

台川 敦美

9月5日～9月9日

愛宕山ボッカの途中で坂田さんへ北鎌いこか？よっしゃいこーで話しが決まる。このコースは多くの人々が楽しんでおられ我がクラブや同じ職場の仲間からいろいろとアドバイスを受けることが出来ました。出発前には写真入り案内書を竹村（錦林営業所）さんから借りて助かりました。

二人合わせて百拾壱才ですがテント生活三日分の荷を背にタイムオーバーながらなんとか行動できましたことは坂田様始め皆様の御協力の賜物と感謝しております。

9月5日—は勤務終了後の出発で七倉登山口へ22時過ぎに到着即テントで仮眠。

9月6日—5時発、ゲートをくぐりすぐトンネルの舗装道路を進み車のかわりに走って来た子兎に感嘆の声を上げて間もなく高瀬ダム、一本立てて唐沢の奥に聳える幕岩を眺めて感無量、ダムの下から上えるのに30分もかかる、東沢のトンネル入り口で朝食中同じコースを行くという若者が追い抜いて行く、車道が切れて山道となり担々とした道を進むと対岸に晴嵐荘が見えてくる残念ながら吊橋は板の張替工事中で小屋へは寄らずで湯俣水俣の合流点の取水口の先にある吊橋を渡り左へ進む、とたんに道は悪くなりアスレチック街道、今年建てたばかりの遭難碑まで出てきて気が重くなる。

2・5万図と簡易高度計で現在地を確かめつつ進行するも目的地は遠く休みの回数ばかり増えてくる、傾いた吊橋を渡ってやっと千天の出会い、この付近のキャンプ・サイトはゴミが多いとぼやきつつ右岸を進み川をまたいでザイルが張ってあるところが渡河点らしいが対岸は崩れて倒木の山、なんとか川を渡り藪の中をトラバースして道を探しつつ河原を歩いたり高巻きしたりまだかまだかで遡行すると谷川が広いゴロ石の河原となり水が急に消えてしまうこの辺りが北鎌沢右俣の入り口に近い所らしい、先行した若者がテントを張っている我々も水の近くにツェルトを張り日暮れと共にオヤスミ。

9月7日朝—雨降りです、厭な気分のままの朝食、ぐずぐずと出発の用意、一人の若者は台風が近づいてます—と下山してしまう、他に二人いた若者はお先にとルンゼに消えて行く、では我々も行きますか—とカップを着ての登りはすきくない—と私のぐち愚痴を神様が聞き届けられたのか約一時間で雨は上がりました、水場も案内書に載ってるとうりルンゼの上部まであり助かりました。

3時間程でやっとコル着、見晴らしは良くなっています、さあこれからが本番—南の方に林立する岩峰群は威圧感を与えてくれます、独標手前のピークで休んでいるとオコジョが顔をだし餌がほしいのか近くをうろうろ—可愛い動物でした。

この岩尾根も年々風化して崩れてるようです、途中で道が消えたり枝分かれしてたりで苦労させられます坂田さんに引きずられて先を急いだのですが北鎌平でとうとう時間切れで無理に行こ

うか行くまいか判断の難かしいところですがガスが出てビバーク決定、台風が気になりCQ・CQ・すると黒部市の局長さんがワッチしてくれて様子がわかり一安心ですがコップ一杯の水とウイスキー少々でのビバークは良い体験をしました。

8日雲多し微風、目印を確かめつつ本峰の登り、安全を合言葉に除々に高度を上げて小さな棚で休んでると人声がきこえる、なーんだ頂上は近いんだ、では折角持参したザイルを使おうと最後の登りを坂田さんのリードで頂上へ到達、天候は良くなって360度視界良好、台風は何処へいったの？。

長居してるうちに多くの人が増えてきて満席となり槍岳山荘へ、ここで待望のカンパイが出来ました、小屋の人に台風はいずこですかと尋ねると南東の雲がそれで今夜あたりに近づくのではとの返事で我々も急遽進路変更、急いで槍沢を通して上高地へ下山それより交通機関利用で七倉まで戻り又々時間ぎれでテント泊でした。

9日は朝早くから開いてる大町温泉蓮華の湯へ行き3日間の汗を流し日中の帰宅となりました、最後にこのコースはザイルがいるとかいらなとか人によって色々な答えがありました判断の難しいところですが唯年々状況が変化することだけは念頭において入山した方がいいと山に教られました。今回は坂田先輩におんぶにだっこの山行でして安全に登ることができそして無事に下山できたことを報告しておきます。

〔コースタイム〕

9月5日名神京都東インター17:00—七倉22:10

6日七倉5:00—高瀬ダム6:30—湯俣10:00—千天出合13:15—北鎌沢右俣15:35

7日北鎌沢右俣6:10—7:8峰のCOL9:40—北鎌平16:00

8日北鎌平5:40—槍ヶ岳頂上7:00—槍岳山荘8:00—上高地16:00—松本駅18:00—
七倉20:00

9日七倉7:00—大町温泉10:00—自宅15:30

【個人山行】

深田日本百名山完登

服部正義

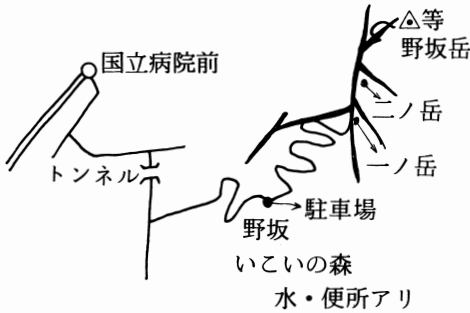
昭和54年、洛西営業所発足後先輩竹井章氏に始めて愛宕山にお世話になる。その時の壮快感、満足感等々で自分の健康管理は登山しか無いと悟る。昭和56年5月ごろまでは毎日仕事終了後、週に一回は愛宕山へ水のポッカ。10kg位のサブザックを持ち、丹波地方の山々を従走5～6時間歩くトレーニング等で体を作る。その内に北アルプスの山々を歩きたくなる。日本百名山最初の山が常念岳。大天井岳、槍ヶ岳、北穂、奥穂、前穂岳等の山を二泊三日で縦走する。その時の大天井岳からの夕陽、北穂山荘からの日ノ出で登山病になった。この山行が雨などいろんなトラブルがあればその時点で遠い所の山登りは行っていません。物事何を行うにも運、不運があって今回日本百名山完登して雨に降られたのは3座位しかありません。しかし歩く登りだけの山登りだったので、山の書物、天気等々の本を勉強しなかったのについに剣岳で「SOS」、この時天候回復まで動かない、寒さに耐えることなどいい勉強になったと思います。日本百名山の山にこだわらずに、色々な山を歩いてきましたが今回百名山の完登の峰をどの山にするか考えるのも一番たのしくて、日本百名山完登の山は群馬県と福島県の県境にある平ヶ岳(2,141m)二等三角点に決めて二泊三日で9月11日、午前出勤5時40分の勤務終了後、車庫で風呂に入って帰宅してPM14:00亀岡出発、和知、美山町、小浜市に出て、敦賀ICから上越ICに乗るつもりが、R27を走っていて右手に一△等の野坂岳を見て、又天気も良く、ここで道草、国立病院前を右折して、「野坂いこいの森」まで車を乗り入れて、さっそく登山、ヘッドランプ、鈴を用意してPM17:15分出発、ジグザグの急登を一ノ岳、二ノ岳、三ノ岳とあり山頂には立派な小屋もあり360度の大展望でPM18:00山頂着、日野山、三周ヶ岳、青葉山、三十三間山方面等々の山々が見え夕陽が沈んで行くのがとてもきれいで又下山は敦賀市内の夜景の明るさで谷に入るまでヘッドランプの必要ない登山道を急いで下山後、夕食を食堂で済ませて一路、上越ICに向う。R253松代町、六日町、小出町R352、無料だった長い長いトンネルのシルバーラインで銀山平に出ていよいよ、いや11年間の長い長い道程だった日本百名山、完登の山、平ヶ岳の登山口、鷹ノ巣登山口に到着、途中60分位の仮眠で朝食を済ませ9月12日AM7:00に出発、山頂まで約12km、おどる気持を押えながら一步一步ゆっくりと登って行く、しかしいつもの通り汗が出てくると調子が出て三等三角点台倉山でワンピッチ、珍らしく10分休む、深田日本百名山の中に最初から平ヶ岳を百名山に、第一に利根源流域の最高峰、第二に、その独自の山容、第三にアプローチが長いと書いている、を思い出しながら、会津朝日岳、会津駒ヶ岳、燧ヶ岳、300名山景鶴山、武尊山至仙山の山頂部分、木立の間からは、200名山の荒沢岳、越後三山、これから最後の山、平ヶ岳も見える、はやる気持を押えて登ろうとするが知らぬまにピッチが上がっている、台倉山ピークから山頂まで7.6kmが短く感じ日本百名山第一座、常念岳から九十八座、飯豊山までの、苦しかった事、楽しかった事、九十八座の山を思いうかべながら歩いて登っていると「たまご石」

と平ヶ岳山頂の分岐点に到着している、2時間40分の短く感じたこと。「たまご石」を見学して
いよいよ平ヶ岳の山頂に向って歩く、唯一人と合わない静かな山旅、ハイマツの中に二等三角点
平ヶ岳があった。赤飯とエビスビールで一人で乾杯、何とうまいビールだろう、九十九座の山会
津駒ヶ岳に登らなければならないので、なごりおいしいが二等三角点をなでて下山、2時間50分で
登山口に戻る、R352から桜枝岐村滝沢橋から林道を登って行き、会津駒ヶ岳登山口、到着16
：30分登山開始、福島ナンバ他の車が二台留っている、鈴とヘッドランプ、ピッケルを持って、
Naピッチで一等三角点会津駒ヶ岳の山頂着PM18：05分、写真タイム、ビールで乾杯、台風17号
の影響か雲が出てくる。平ヶ岳同様に湿原あり木道を歩く、池とう近くにログハウスの駒ノ小屋
に着く、その横にキリンテ、御池コースの道があり、この小屋の前にある池とうからの駒ヶ岳も
カメラに収めたくなる。18：55分登山口に戻り林道を下り桜枝岐村営温泉浴場（第一、第二）で
平成3年4月21日、深田祭で頂いたタオル百の頂に百の喜びありで長がかった山旅の汗を流して
もらいゆっくり温泉につかり、近かくの食堂で夕食をとりビールでカンパイー天気も良く怪我も
無く無事、日本百名山に完登出来たのも山登り仲間があつてこそと思います。

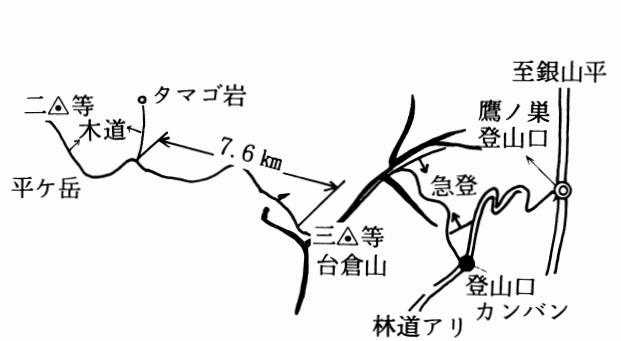
駐車場に戻り13日、14日の予定をたてる。一△等七ヶ岳、博士山、浅草岳、200名山、守門
岳を登って帰京するが、それとも七ヶ岳だけにして、帰京するか思案する、知らぬ間に眠ってい
た、気がつけば13日AM3：30分ごろ約6時間ぐらいいぐっすり眠った。台風コースでもあるので、
七ヶ岳だけにして出発、R352、七ヶ岳村道登山口に車を走らせ古今コース、大嶽(1,507
m)から七峰を従走して一△等、山頂に着く、途中険しい所もあるが、静かな会津の山旅が出来
ました。下山後、R352の小豆温泉に入浴して一路往路と同じルートで上越ICに向うが銀山
平附近から大雨、シルバーラインを出た折立温泉の町で夕食を取り車中で足を伸ばし、ゆっくり
シユラクに入り眠る。14日AM5：00ごろ深い眠から雨の音で起床、小出町、六日町、松代町で
上越IC北陸自動車道に乗る。まだ雨が降りつづいている途中パーキングに何回も寄り加賀IC
から大聖寺町に入ると雨も止み、まず最初に深田久弥氏の生家をたずね弟の深田弥之介氏に若い
頃のお話し及び墓碑、江沼神社内の文学碑等々を案内していただき、久弥氏の墓碑に98座のア
ルバムと会津駒ヶ岳、平ヶ岳で百座目完登の報告をさせてもらいローソクを立てて合掌する。こ
の本光寺は大聖寺町の小高い丘の上で向山も見える、静かな場所で久弥氏はここで眠っておられ
ました。4月21日の深田祭の芽ヶ岳(二等三角点)登山、完登記念登山は白山と決め9月25日、快
晴のもと観光新道からAM5：00登山口出発して7：50分頂上に着く、能登半島方面に向って合
掌、北アルプス御嶽、大笠山、久弥氏久恋の山、笈ヶ岳、大日岳、荒島岳等、360度の大展望、
前回登山の時は、百名山登山、今回は一△等の設石の前で写真を撮り、傷のついてない石をなで
て、別山(二等三角点)に向って従走、トンビ岩コースをとり油坂ノ頭(2,258m)の登り油
汗が出るくらい急登、人気の無い山だが、南アルプスを歩いている感じの白山、別山従走日帰登
山でした。今後は日本山岳会選定日本三百名山完登しますと深田久弥氏の墓前で誓ってきました
ので無理をせず、墓碑の横に書いてあった、「読み、歩き。書いた」が出来る様に努力して山登
りを続けていきたいと思っています。

早も急かるる次の山
 何の俘とりこのわが心
 一つの山を終りけり
 山の茜あかねを顧みて
 深田 久弥

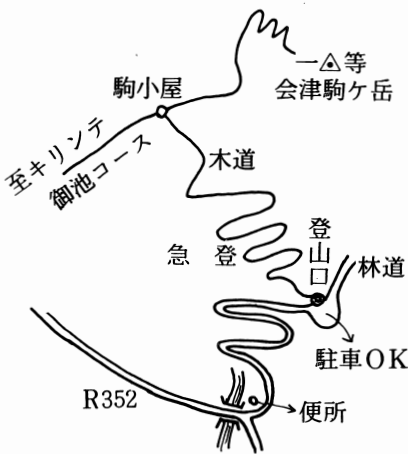
野坂峠 (914m)



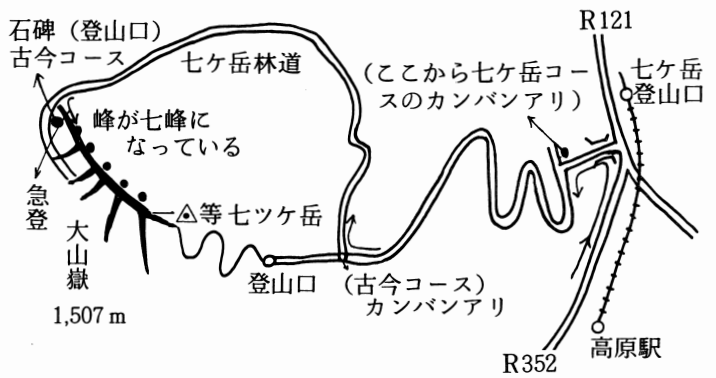
平ヶ岳 (2,141m)



会津駒ヶ岳 (2,132m)



七ヶ岳 (七峰) (1,635m)



大雨見山 | Δ 1,336 m と、登り損こねた乗鞍岳

津田 実

乗鞍岳は数年前に畳平まで行っていながら天候の急変で空しく引き返したことがあって何日か登ろうと心に秘めていた山だ。今回、吉田君から乗鞍岳と野麦峠と温泉をセットした山行きの話しがでたときにこれで先の仇が打てる。大好きな山と温泉のセットとは、こんな結構な話しを断ったら罰が当たると、二つ返事で参加した次第。

台風19号が接近しているがアカン、カッタラ温泉が待っていると、またもや横着心を起こして25日AM6時に京都を出発した。

雨の降るのに行った小秀山に三国岳を思い浮かべ、快晴の無台峠を駆け降り高山市内に入り美味い饅頭を賞味して一路、大雨見山へ向かう。

R41号と別れ、国府町と上宝村を結ぶ街道に入ると十三墓との標識があった。余り気にせずに峠を越え堂殿の聚落外れに今度は七つ墓の標識に逢う。何んでも峠の向かうで十三人、此处で七人の落武者が死んだので土地の人が哀れんで石碑を建てたとのこと。

天文台の入口が分からないので村人に聞こうとしたら吉田君に「人に聞かずに地図を読め」とオコラレタが分からんのだから仕方がない。調度、車を洗っていた青年に尋ねると親切に教えてくださった。その教示に従い少しバックすると京大飛騨天文台と標識が小さく、あった。峠から降りてくると、後ろ向きで見えなかったのだ。

最初は舗装された道路だったが次第に悪くなり遂に本来の林道に戻るとゲートが現れた。それから少して白い建物にでたら其処が天文台だった。駐車場の許可を貰って愈々歩き出す。建物の左手から好く踏まれた小道を調子よく歩いて行くと突然小道が消失。慌てて地図を見たが、前方に目指す大雨見山が見えるのに径が判らないのは残念と吉田君と捜すと、タオルが雑木に結んであり、近くに赤いテープも見つかり、更に付近をさぐると忽然と小径が出現した。どうも幼木を植えるときに付近を刈り取ってその儘、放置されたから雑草や雑木が繁茂して小道が（消失）自然に還っていたのだ。

熊笹と雑木を掻き分けていくと径は降りて笹のなかの細い流れを飛び越え登って行く。空き缶を見付け、菓子の紙を踏むと前方で「アッター」の声。とうとうきたらしい。急いで駆け上がると熊笹の影に恥ずかしそうに地面から少し顔をだしていた。

早速、吉田君が周囲の笹を刈り取る、その間に小生持参のご神酒を用意して神前に捧げる。山名辞典によれば雨乞いをした山とあるので何か痕跡でも残ってないかと周囲を捜したが深いヤブに阻まれて断念。昔の行事の痕跡の代わりにビニール袋一杯の塵埃を発見した。

此のような深山の標石を訪ねて来るような人が山の素人ではあるまいに塵埃を残して行くとは、悲しいことだ。周囲は朝方の好天が嘘のような曇り空に変わり何も見えない、仕方なく退散する。

上宝村役場に寄って地図を貰い、数年前に行った中尾温泉の露天風呂を捜したが老人性痴呆症か思いだせず、予約しておいた福地温泉に一泊する。その夜は台風に加減か、暗い空で露天風呂で缶ビール片手に満天の星の鑑賞はできなかったが、適当な温度のお湯と、お飲物と、丸い白いお月様を見て満足。ネンネ。誰かは、台風のような軒声に悩まされたそうだが。

翌日は、夜来の雨こそ止んだが登山には余り好い天気とは云えないが、万一の僥倖を願って乗鞍スカイラインへ車を駆る。ところが高度が増すにつれてガスが濃くなり、センターラインを頼りに進む始末。畳平の駐車場では手探り（チョットオーバー？）これでは三角点は無理と断念。

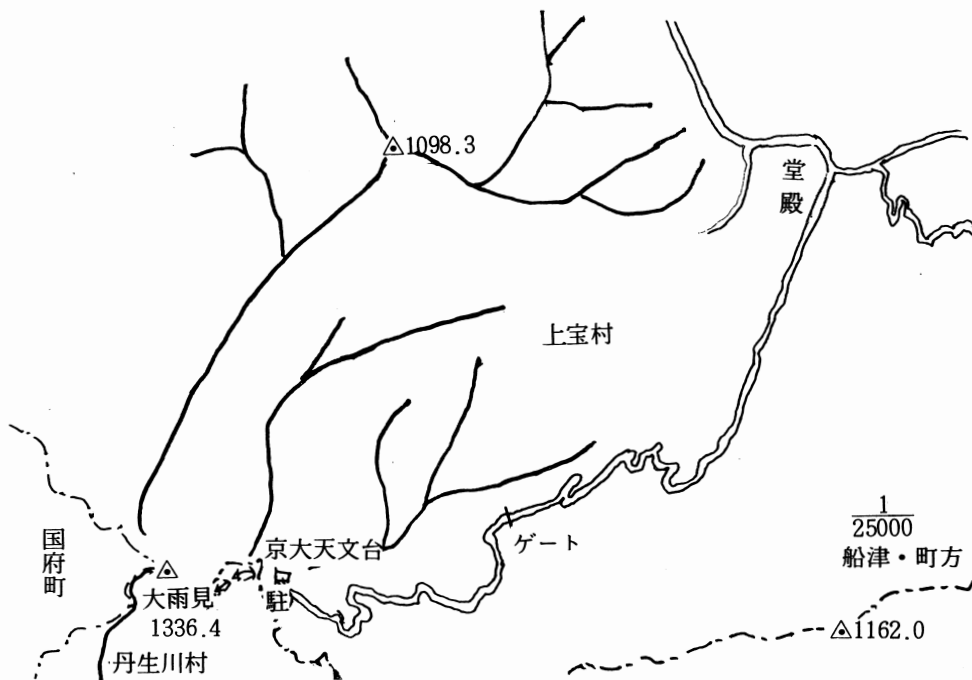
第三のターゲット？白骨温泉の露天風呂目指して山を降りる。ガスで前方が見えず、またもやセンターラインのお世話になり超スローでおりて行くとオバハンが後ろから右や左やと、その喧しいこと。「落ちたら一蓮托生や」と云うと「アンタと死ぬのは御免や」と言う。勝手にせい、ハンドルを持ってるのは誰や（カゲノ声）

何んとか云い乍ら降りていくとガスも晴れて紅葉の樹林帯にでてきた。若者が写真を撮っているのを見たオバハンが先程の悪態も忘れてか、今度は写真を撮るから車を止めと云う。ペパーロックが怖いのでこれ幸い一服した。

それから降りて行くと清冽な水が崖から噴出していたので皆んなで飲んだがその美味しいこと。今までの緊張が一遍に解けた。

一金410円也を払い白骨温泉への林道へ入る。これが有料道路かとブツブツ云い乍ら走りお宮の前に車を止め。露天風呂を捜すと、すぐ下にあった。自然の巨石が屋根や壁になり、これなら女性でも安心して入れる。但し、男女別なし。

何かの本で読んだとおり、乳白色だったがお湯の温度が低く、入ったら仲々あがれないのが難



んだが。それは無料なので文句は云えない。付近が塵埃で汚いのと共に。

こんな遠いところは何遍も来られないので、女工哀史で有名な野麦峠へ車を廻し「飛騨が見える」。と故郷を思い乍ら逝った彼女等の哀れな一生に涙し、棧温泉で冷えた身体を温めて木曾路を後にした。

今回は、当初の目的の乗鞍岳は思わぬ台風の襲来で断念したが飛騨の名峰に登れ、紅葉と、温泉を満喫できた結構な山行ができました。

企画、案内して戴いた吉田さん、ありがとうございました。

〔参加者〕 吉田、原田、津田F1

【個人山行】

三田の山 千丈寺山 I △589.6m

津田 実

前日の秋日和と裏腹に無情にも天気情報は雨とのご託宣。それにも関わらず、またもや酔狂者三名が『霧海乃国』へと車を駆る。

アチラ、コチラと間違えて。むかし流行った歌の文句ではないがヤット辿り着いたのが乙原（オチバラ）の集落。フードショップの横文写につられて入ったが買う物が無い。酒屋を尋ねると、「近くにはない」との情けない、お言葉が返ってきたが。

交渉はジャッカン大使、どう話しをしたのか？。数個の缶ビールと駐車場の許可を得てきた。お呑物と食べ物を入れ、登山口を教えて貰い勇躍？集落のなかの道を北上する。

付近は分譲地の看板乱立。こんな急傾斜地を買っても所詮、家は建てられない。第一造成が大変だろうし電気も水道も近くにない。此れもバブル経済の溢りか。でも、我ら裸天国には無縁のもの。

集落を外れて少し行くと左に小道が別れている。奥村さんの指示でその道に入って行くと屢しで道は濡れた雑草に覆われ進行不能、ジャッカンの号令で雨具を付ける「コノ暑いのにカナンナ」。それからすこし行くと荒れた伐採地で小道は消失、大きな石の右手を心得顔で行くと突然踏跡が消えたが少し捜すと踏跡はあった。それから確かな道になり、登って行くと峠にでた。

乙原と上青野の村を結ぶ古街道の面影歴然。峠の地蔵さんを捜したが見つからなかった。峠から支尾根の取り付けは最初から四駆のお世話になる。大倉君の話では「楽々みち」とのことだったが我輩は物凄くシンドイ、それが延々と続くので、途中で一服する。

上衣と雨具のズボンを脱いで歩くが、どうも何時もの調子がでない。同行者から「今日はエア足が重いやないか」と指摘を受ける。

今は服装の難しいときで、その調整を誤ったらしい。主尾根にでると前に千丈寺山の前衛らし

きものが見え、岩峰がでてきた。岩を登るのは高度を稼ぐのによい、二つ、三つと登って緩い径になると左に小径があった。偵察に行くとき岩室がありなかに祠があった。それから痩せ尾根の岩を二つほど越えると岩の下に三角点があった。もう少し調子よく、降りたら標石にブツカルくらいだった。何はとにかく先ず写真を撮り、セレモニー開始。

案内書に依れば「岩室があり、なかに小祠がある」と書かれててたが、それらしいものは発見できなかった。

また、山頂の岩の上からは北は多紀アルプス、東は北摂の山々、南は六甲連山、西は播磨の山が並び、爽快な気分になれる。とあったが。雨雲に追われ、空しく退散する。

先ほどの祠のところまで戻り、好く踏まれた小径を下って行く。途山に、また、岩室があり、明らかに人工の井戸の跡があった。千丈寺山と云うのも気にかかる。太古にお寺か、何かがあったのかも。

19号台風のためか、青葉の落ちたのが多い。折れた木々も多く見られる、登りの道には、此んなになかったが。

それからどんどん降りていくと小道に逢い、栗林を過ぎると農家の前を通り、フードショップの500mほど下手にでた。

余り不思議なのでショップのおかみさんに祠のことを尋ねたが「何も知らん」とのことだった。

9 1. 9. 3 0 曇り後雨

〔同行者〕 奥村, 吉田

例会予告

◎ 山ノ会合同登山風越山(権現山) 1,535m

大川入山 1,908m

日時 11月9日~10日 地図 浪合 1/2.5万

集合 6:00壬生出発 飯田 1/2.5万

担当 大槻雅弘, 岡田茂久

コース(9日) 京都—(名神・中央高速)—飯田—浪合村—治部坂峠—大川入山
—治部坂峠—浅野温泉(泊)

(10日) 浅野温泉—飯田—風越山—飯田—京都

※山の会とは浅野温泉で合流します。

費用 約10,000円

(宿泊) 浅野温泉 長野県下伊那郡阿南町(0260-22-2307)

申込〆切 11月5日

例会報告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1847	剣岳を変更 火打山と雨飾山	9月14日～ 16日		井戸 澄夫	馬淵, 岩野 大塚	(別稿詳報)
1848	蛭ヶ岳～ 丹沢山を変更 西中国地方の山 十種ヶ峰と冠山	9月14日～ 16日		吉田 武	岡田, 大槻 田村, 岡本義	(別稿詳報)
1849	那須が原山	9月15日	雲	井上 一夫	津田, 横井 上島, 原田 伊豆蔵 F 1 竹田, 山口 山元	(別稿詳報)
1850	磯 木 山	9月28日		大槻 雅弘	岡田, 鷺見 F 1, 三橋 渡辺, 方山 井戸	(別稿詳報)
1851	シシ岳 シャカ岳往復	10月5日～ 6日		大倉寛治郎 吉田 武	山岡, 松田 西尾, 大倉 F 津田, 吉田 F2 田村, 原田	(次号詳報)

部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記事
槍ヶ岳北鎌尾根	9月5日 ～9日		坂田利春, 台川敦美	(別稿詳報)
深田日本百名山 完登 平ヶ岳, 会津駒 ヶ岳	9月11日 ～13日		服部正義	(別稿詳報)
大雨見山	9月25日 ～26日		津田実, 津田 F 吉田武, 原田かつ子	(別稿詳報)
千丈寺山	9月30日		奥村弘信, 津田実, 吉田武	(別稿詳報)

雑 報

▲▲▲ 10月の集会

10月9日(水) 場所 厚生会館4F

出席者 (本局) 鷺見, 井戸, 梅津(吉田)(洛西)服部 (OB) 津田, 坂井,
奥村 以上7名

内 容 例会報告ほか

▲▲▲ 他山岳会の会報(受贈分)

10月号 北山, 京都山岳, 比良山岳, 近畿山岳, 趣味の登山, 木雞, 山友, 青嶺

▲▲▲ 『'91・山岳遭難を無くする集い』開催要項

〔平成3年度・京都府山岳連盟山岳遭難対策事業〕

◇主 旨

★当連盟では、冬山シーズンを前に〔山岳遭難防止〕を目的として、一般の登山愛好者の皆さんを対象として〔山岳遭難を無くする集い〕を計画しました。★京都のテレビや新聞で報道される以外にも山岳遭難事故は相変わらず発生しており、その原因の多くは遭難者側にあると言われていています。★本年は、立山山麓の文部省登山研修所の講師として、リーダー養成の第一線で活躍されている柳沢昭夫氏を招いて遭難防止を中心に講演を予定しています。★参加資格は問いません。最近登山を始められた方は勿論、ベテランの域にある方も、お誘い合せのうえ、多数のご参加をお待ちしています。

◇名 称 '91・山岳遭難を無くする集い

◇主 催 京都府山岳連盟〔担当：遭難対策委員会／京都府山岳連盟山岳遭難救助隊〕

◇後 援 京都府警察本部・京都府教育委員会・(財)京都府体育協会
㈱京都新聞社・NHK京都放送局

◇日 時 平成3年11月30日(土) 午後6時から8時30分まで

◇会 場 京都府中小企業会館／市内下京区西大路通五条下ル東側
☎075 - 314 - 7171 (代)

◇入 場 無料・資格は問いません。

◇内 容 I〔講演〕

〔安全登山に必要な技術とリーダーの責任〕

講師 文部省登山研修所〔立山山麓〕専任講師 柳沢 昭夫氏

II〔カラースライドによる特別報告〕

〔ティリッチミール(7708m)登頂と救助活動〕

講師 日本・パキスタン合同ティリッチミール登山隊 '91

〔日本山岳会・京都支部〕 登山隊長 須藤 建志氏

Ⅲ〔登山相談所開設〕

当日会場で、当連盟指導員による登山相談を行います。山岳会への入会・山岳連盟への加盟・連盟指導員の派遣依頼・登山計画のたて方・装備・その他登山に関することなら何でもお気軽にご相談下さい。

Ⅳ〔登山用品の展示〕

登山用品専門店の協力で最新の登山用品の展示（一部即売）を行います。

◇問 合 せ 京都府山岳連盟事務所・☎075 - 241 - 2344〔清水〕まで。

▲▲▲ 平成3年度：全国自然保護委員総会

- * 主管岳連 滋賀県山岳連盟
- * 開催日程 平成3年11月9日（土）～10（日）
- * 場 所 滋賀県・愛知郡永源寺町

▲▲▲ 11月17日／一斉清掃登山大会の取組みについて。

例会予告〔1857回例会〕参照
部員の皆様のご協力をお願いいたします。

▲▲▲ ふるさとの自然観察路スタンプラリー

京都府では自然保護は自ら自然にふれあい、親しむことから始まるものとの趣旨で、自然観察路として府内13箇所の自然観察適地を選定し、この度、この自然観察路を対象にしたスタンプラリーが企画されました。ふるって参加ください。

★実施主体

- 主 催：京都府
- 協 力：京都市，大山崎町，宇治市，八幡市，加茂町，亀岡市，美山町，園部町，綾部市，大江町，舞鶴市，加悦町，久美浜町

★内 容

- 1 スタンプ帳の配布
 - ・京都府保健環境部環境対策室でスタンプ帳をお渡しします。（郵送を御希望の方は送料を御負担願うこととなります。）
- 2 応募対象
 - ・府内13箇所の自然観察路のうち7箇所以上の自然観察路を巡り、当地に設置してあるスタンプをスタンプ帳に押印して送ってください。
 - ・また、同時に、自然観察路を訪れた時の感想文、写真、スケッチなどをお寄せください。（スタンプ帳だけでもかまいません。）

3 提出期限

平成4年2月末日（当日消印有効）

4 記念品等

- ・終了したスタンプ帳を送付された方には、後日、記念品をお送りします。
- ・提出していただいた感想文、写真、スケッチ等の作品は、環境月間行事等で展示するなどして活用させていただきます。

5 提出先及び問い合わせ先

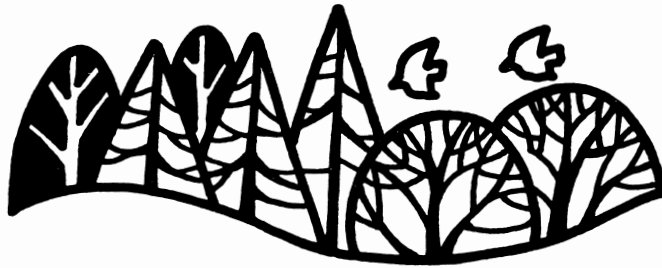
京都府保健環境部環境対策室自然保護担当（〒602 京都市上京区下立売通
新町西入る ☎075 - 414 - 4706）

*なお、提出されたスタンプ帳はお返ししますが、作品につきましては原則として返却はいたしませんので、御了承願います。

別表

◎ふるさとの自然観察路

観 察 路	所 在 地	ス タ ンプ 設 置 場 所
①久美浜湾	熊野郡久美浜町	K T R丹後神野駅・兜山公園キャンプ場
②神崎浜	舞鶴市神崎	K T R丹後神崎駅
③池ヶ成公園	与謝郡加悦町	加悦青少年山の家
④岩戸山	加佐郡大江町	天岩戸神社
⑤君尾山	綾部市睦寄町	光明寺
⑥芦生	北桑田郡美山町	芦生なめこ生産組合売店
⑦るり溪	船井郡園部町	るり溪高原フラワーガーデン
⑧平の沢	亀岡市馬路町	J R千代川駅
⑨花背大悲山	京都市左京区花背	峰定寺
⑩天王山	乙訓郡大山崎町	J R山崎駅
⑪男山	八幡市八幡高坊	石清水八幡宮
⑫紅葉谷	宇治市白川	白川集会所
⑬当尾	相楽郡加茂町	浄瑠璃寺・岩船寺



HIROSHI HASEGAWA'S SHOP
 FOR MOUNTAINEERS & BACK COUNTRY SKIERS
 THE LOG CABIN CO.
 KYOTO JAPAN

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
 仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88
 TEL (075) 771-3442

帆布・濾布
 テント・シート
 雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
 TEL 801-5331 (代)

西大路営業所
 下京区西大路七条下ル
 TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

- 登山用品はもちろん、
 注目のスポーツ
 カヌーをはじめ、
 ひと味違う充実の
 品揃えは必見のもの!!



ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 (年中無休)
 京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
 ☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Outdoor sports
 ハイキング&キャンピング・クライミング
 アウトドアウェア・US旗出品
 ボーイスノフト用品

Mountain

〒604 京都市中京区二条通河原町西入
 TEL 075(268)-0548
 ●営業時間 AM10:00～PM8:00 毎週火曜定休
 ●(株) スポーツ コニシ

自費出版のススメ

自分の文章が活字になる喜びを味わってみませんか 詩・随筆・自分史・社史の編集から印刷・製本までプロの小社がお手伝いさせて戴きます

(株) 北斗プリント社

〒606 京都市左京区下鴨高木町38-2(バス停前)

TEL (075) 791-6125(代)

FAX (075) 791-7290



建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
 国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次
 通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
 各種地図製作並びに印刷
 地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

株式会社 **小林地図専門店**

〒600 京都市下京区^{あけす}不明門通六条下る西側
 (烏丸通六条東 1筋目下る) ☎ (075) 351-6598

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

平成3年11月1日

京都市中京区壬生坊城町 4 8

京都市交通局内

京交山岳部